

2014年9月1日発行 第137号

目次	
P1 巻頭言「百聞は一見に如かず」	P4 台湾の薬膳 家庭料理
P2 新入会員を囲む会	P5 ゆかた体験教室
P3 都立三田高校ユネスコ委員会の皆さんの来室	P6 事務局便り / 編集後記

## 百聞は一見に如かず

港ユネスコ協会理事 中前由紀



年頭の抱負を、今年は「百聞は一見に如かず」に決めました。言い古された言葉ですが、改めてこの言葉を心に刻んで行動しようと思いました。

区議会議員として仕事をするうえで、現地・現場で五感を通して学ぶことの大切さを強く感じます。地域密着の仕事なので、限られた地域内で動くことが多いのですが、身近な街ばかり見ていては自分やまわりの常識を中心に物事を考えてしまいがちになるのではないかと思います。離れた地域や、さらには海外の都市に足を運び、生活様式、価値観、文化、街のルールを直に見聞きすることで、多くの発見や刺激があると思います。

しかし昨年までは、海外へはほとんど行ったことがありませんでした。まとまった時間がとれないことに加え、個人的な海外旅行に少々ためらいがあったからです。

ですが港区は外国人居住者や来街者も多く、外国人向けサービスの充実が課題の一つでもあります。

今年は海外へも躊躇しないで行こうと決め、4月にロンドンに行ってきました。

区議会の委員会や地域の用事などは直前に入る場合もあり、日程調整が大変でした。しかし日程さえ決まれば、片付けるべき仕事を済ませ、訪問先の下調べをするなど、充実した時間を過ごすことができました。旅慣れてなく、英語も堪能でない私が、自分でスケジュールを組み、手配し、ひとりで海外に行くのは、いい意味で緊張感が一杯でした。

行き先をロンドンに決めたのは、6年後の東京オリンピックを見据え、成熟都市として直近の2012年にオリンピックを開催したロンドンの今を見たかったからです。

メイン会場には、あえて荒廃したエリアであるストラッドフォードを選び、オリンピックを機に地域を整備したのです。2年経た今、その跡地は国内最大級の公園「クイーン・エリザベス・オリンピック・パーク」として賑わっていました。開発が完成する2030年には、エコを柱に、スポーツ施設、大学、住宅、ショッピングモール、医療センター、メディアやテクノロジーの拠点などが集積し、積年の課題であった東ロンドンの街の再生が果たされます。

ロンドンの街で一番感動したのは建造物や公園の美しさでした。中心部だけでなく郊外にも調和のとれた美しいレンガ建築が連なっています。理由の一つは、新しい建物を建てると税金が高く、皆が古い建物を修復して使っているからとのこと。また、赤い二階建てバスが目を引き中心部は、一般の車の乗り入れに税金を課して渋滞緩和を図っているなど、うまく政策誘導していることに感心しました。

一方、地下鉄の清潔さや時刻通りの運行、食文化、物価などの面は日本の良さを改めて実感するなど、多くの発見があり、とても有意義で楽しい旅でした。(ちなみに旅費は自費で行きました。)

港ユネスコ協会でも国内外への見聞を広める多くの催しが用意されています。「百聞は一見に如かず」です。さあ出かけましょう！ (港区議会議員)

# 2014年度「新入会員を囲む会」和やかに開宴

日時：2014年5月29日（木）18：30～21：00

会場：港区立生涯学習センター304室および港ユネスコ協会事務局

新年度総会が無事終了後、新年度一番目の事業としてすっかり定着したのが、この「新入会員を囲む会」です。学校や企業に置き換えれば入学式であり、入社式に当たります。新人を歓迎するというだけでなく、互いに同じ目線で、等しく語り合おうという軸足に立っています

出席者は、新入会員3名を含む、17名でした。

## 第1部 「説明会」305号室にて（司会進行役は友金守理事）

最初に、数々あるボランティア団体の中から、MUA（港ユネスコ協会）を選んで、入会いただいた皆さんに対し、高井光子会長の歓迎の挨拶と、協会の概要紹介によってスタートしました。

— 33年前、「国際都市・文化都市港区にふさわしい組織をつくろう」と、財界人、文化人、教育関係者、地域活動をされている方々などが一緒になって、当協会が創立された。以来、港区からの財政的な支援を受けつつ、多種多様な活動が、会員の企画・運営によって、続けられている。

2本柱として、①「先進的な国際都市・港区ならではの国際理解・国際交流を進める活動」②「国連のユネスコ憲章で謳われている理念に則って、共に生きる平和な地球社会をつくり、人類の幸福の実現をめざす活動」がある。また、全国の約300の民間ユネスコ協会と協力した活動も行っている。

当協会が、今後も生き生きとし、魅力的な組織であり続けるために、新入の皆様に積極的に活動に参加して、新しい風を吹き込んでいただきたい。活動は社会や世界への貢献と同時に、多くの方と出会い、力を合わせ、助け合いを学ぶ場でもあり、視野を広げることに役立つと思う。皆様に、ぜひ、どこかの委員会に所属して、積極的に活動にご参加いただき、ご協力下さるようお願いいたします。—

その後、友金理事が新入会員のお名前をご紹介。1人ひとりが起立して、一礼しました。

つづいて、8つの委員会の紹介の時間です。新人の方にとって、MUAの全体像を理解できる機会であり、また、各委員会にとっても新入会員へのアピールの機会です。各委員会の委員長または担当常任理事は、紹介パネルを使うなど、工夫を凝らして、委員会の活動・事業の紹介を行いました。

まずは、自分が関心を持った委員会にまず出席してみて、事業に企画段階から入り込むことだと思います。

さあ、皆さん、積極的に行動しましょう！先ず、アクションです！

## 第2部 「懇親会」

場所を移して事務局へ！

秋山雅代担当常任理事の乾杯で元気よくスタートしました。

準備された料理、菓子を楽しみながら、出席者全員が自己紹介をしました。

新旧会員交えての自己紹介は、他人のセールスポイントを発見する絶好の機会でも

あり、旧交を温めあう場でもあります。人は互いに出会うことによって、刺激しあい、励ましあって生きていく動物だと考えています。MUAで知りあい、仲間になりましょう。自己開発の第一歩となることでしょう。

あちこちから聞えてくる明るい笑い声はまさにMUAの未来を象徴しているようでした。まだまだ、話したいことが山とありそうでしたが、終了時間となりました。

最後に一言、中学生時代の先生が教えてくれたデカルトの名言「我思う故に我あり」のように、「我MUAを思う 故に我あり」と言える日を目ざして・・・

（会員開発委員会 理事 友金守）





## 都立三田高校のユネスコ委員会・来室

2014年6月17日(火)、19日(木) 午後4時～5時 会場：事務局

都立三田高校は、ユネスコスクールとして半世紀以上の歴史を持っておられます。今年も、ユネスコ委員会の生徒さん35名が2班に別れて、放課後の午後4時、藤村由夏先生、前島緑先生の引率のもと、活動の一つとして当協会の事務局に来て下さり、高井がお目にかかりました。

ユネスコの誕生の経緯や理念などについてお話し、平和とは何かなど話をさせていただきました。

後日、お2人の生徒さんから感想文をいただきました。先生のお許しを得て、掲載させていただきました。



### 2年生 村田 涼 さん

お忙しい中、時間を割き、貴重なお話しをして下さりありがとうございました。

私は今年初めて三田高校ユネスコ委員会に入ったのですが、恥ずかしながら委員長なのにユネスコのことを国連の専門機関とまでしか知りませんでした。しかし今回の訪問で、ユネスコは戦争を生み出さないようにする大きな理念を掲げた、世界にとってとても大切な機関だと知り、もっとユネスコ委員会の活動を活発にしないといけないと思いました。委員長として精一杯頑張っていきます！

今回、高井さんの体験談を含む太平洋戦争についてのお話しを聞かせていただきました。私は今まで戦争の話は文面でしか見たことがなく、直接話を聞いたことがありませんでした。何度か祖父母に聞いた方がいい、と思ったこともあったのですが、なかなか切り出せずにいました。

しかし今回高井さんが戦争についてお話し下さり、おつらいこともきっとあったはずなのに私たちに伝えなくては、という思いで話してくださいました。戦争のことは出来るだけ話したくないとおっしゃっていましたが、やはり、2度とくり返さないために私たちに伝えてくださったのだと思います。

世界各地で今でも戦争や紛争が続いていますが、戦いは誰にも幸せをもたらしてくれない、ということを忘れずに過ごしたいと思います。

### 2年生 中村 友香 さん

今回は貴重なお話しを聞かせてくださりありがとうございました。

私は去年に引き続き2度目の訪問でしたが、改めて「平和」について、そして自分がユネスコ委員として何ができるのかを考えることができました。

戦争の体験という、普段はあまり聞くことのできないお話しを聞かせていただけた私たちはこれからどういう活動をどういう気持ちでしていくべきなのかを心に留めながら、活動をしていきたいと思いました。

そしてその活動を通して、三田高校のみんなに今回学んだことを広めていきたいです。

私たちに出来ることは限られた小さなことですが、出来ることを精一杯やって、少しでも平和な世の中をつくることに貢献できれば、と思います。本当にありがとうございました。



敗戦後69年。3年前に三田高校ユネスコ委員会の皆さんが来室されるまで、人前で戦争の自分の体験を話したことはありませんでした。しかし、未来を担う若い方がたにお話しすることは、シベリア抑留中に没した父をはじめ、大勢の戦争犠牲者の皆様への供養でもあり、悲劇を繰り返さないために、私に課せられた責任ではないかと思い始めました。

この機会を与えて下さった三田高校の先生、たどたどしい話を真剣に聞いて下さった生徒の皆様、心からお礼申し上げます。  
(会長 高井光子)

## 台湾の薬膳 家庭料理

日時：2014年7月6日（土）12時～15時30分

会場：港区立男女平等参画センター（リーブラ）料理室



講師：劉 淑恵さん（薬剤師／薬膳料理研究家）

今回は、薬剤師で薬膳料理研究家の劉淑恵さんを講師にお迎えして、台湾の薬膳料理についてのお話、調理実習をしていただきました。

日本から2～3時間で行ける台湾は、参加者の半分くらいは行ったことがある身近な国で、屋台での外食産業が発達しており、海の幸、山の幸の食材豊富な宝島。朝から、おかゆ、にくまん、あんまん、揚げパンに豆乳。夕方から夜遅くまで、あちこちにB級グルメが並びます。

薬膳は、基本である五味（酸、苦、甘、辛、鹹）、五色（緑、赤、黄、白、黒）、五性（寒、涼、平、温、熱）の旬の食材を取り入れ、己の体質をよく知り、「気」「血」「水」の流れを良くするためのデトックス（解毒）も行い、健康維持に努めています。一般の家庭でも取り入れられています。



### メニュー

- ★ 薬膳鶏（薬膳鶏のスープ） 当帰、高麗人参、クコの実、黒棗（くろなつめ）、蓮子（はすのみ）を煮出した鍋の中に、（お腹の方が柔らかいので）仰向けに鶏を入れ、しばらく煮たスープ。鶏丸ごとの印象的な一品。
- ★ 肉包子（にくまん） 粗めに作ったあんを、粉から手作りした皮で包むという、ちょっと難しい技に挑戦しました。
- ★ 涼拌蓮藕（れんこんの甘酢漬け） 薄くスライスしたれんこんを茹で、しょうが等で味付けしたシンプルなお一品。
- ★ 台式炒米粉（台湾式ビーフン炒め） 干しエビ、豚肉、キャベツ、しいたけ、ねぎ、黄蕪など、具がたっぷり入ったビーフン炒め。
- ★ 緑豆薏苡湯（緑豆とはと麦のスイーツ） 緑豆、はと麦に三温糖を加え煮た優しい甘さのデザート。



劉先生が工夫をこらして考えてくださったメニューは変化に富み、味もよく、量もたっぷりであって、台湾の家庭料理である薬膳を十分に堪能させていただきました。多くの調理器具の使い、慣れない作業もあったのですが、参加者の皆様には協力して調理していただき、大変有意義な時間が過ごせました。

準備の段階から丁寧に対応していただき、材料の手配等でも大変お世話になった劉先生、お手伝い下さった方、参加者の皆様にお礼申し上げます。  
（世界の料理委員会委員 金澤由里）

## ゆかた 着付け体験教室

日時 2014年7月27日(日) 13:00~16:00

会場 港区立赤坂区民センター 第一和室

日本の「和」の文化、ゆかた。ゆかたを着て花火大会、夏祭りなどに出かける若者が増えています。

日本に滞在中の外国籍の皆様にとっては、実際にゆかたに触れ、袖に手を通す体験は、日本文化を肌身で味わう機会であり、きっと、楽しい夏の思い出、日本の思い出になることでしょう。

体験教室の企画内容 ☆ゆかたの歴史の説明  
☆ゆかたの着付け練習  
☆記念写真  
☆懇親会

参加者は26名(子供4名含む)で、出身のお国は下記のとおり。  
スリランカ、ハンガリー、コロンビア、バングラデシュ  
インドネシア、ガーナ。日本人は8名でした。



委員会のメンバーが、色とりどりの柄や色のゆかたを数多く準備した甲斐があって、参加者全員がそれぞれに、自分で気に入ったゆかたを選んで、着ることができました。

好みのゆかたを着た皆さんは華やかで、顔が輝いておられました。あらためて、民族衣装の力、そして、比較的手軽に楽しめ、日本情緒を即座に味わえるゆかたの良さ、伝統の魅力を感じました。

### 参加された方の感想をご紹介します。

- \*近々ハワイでゆかたを着るので参加しました。
- \*国際色豊かな中での着付けは、新鮮で楽しかった。
- \*他の外国人にこのイベントを紹介したい。
- \*全てが、興味深かった。



スタッフ9名がそれぞれに役割分担して、協力しました。参加者の嬉しそうな様子にスタッフも一緒に楽しさを分かち合いながら、終えることが出来ました。

(文化体験教室委員会担当常任理事  
平方一代)



予告

**UNESCO ユースフォーラム in みなと 2014**

**留学生と一緒に楽しい時間を過ごしませんか。ご参加お待ちしております。**

日時：10月4日(土) 午後1時~5時30分

会場：港区立男女平等参画センター(リーブラ)5階ホール(JR田町駅から徒歩2分)

参加費：無料 定員130名(申込み先着順)

## 事務局便り

【ようこそ 新入会員】 個人会員：木曾功さん、小林敬幸さん、増田典子さん、渡邊聖也さん、劉淑恵さん

【今後の行事予定】 (詳細は別途、チラシやホームページでご案内します)

☆9月10日～12月17日 英会話初級クラス 毎水曜日 18:30～20:30、コース全14回

講師：マーク・マードック先生 会場：港区立麻布区民センター

☆9月16日(火) 18:30～20:30 第2回国際理解講演会 会場：港区立麻布区民センター・ホール

講師：榊原英資先生(青山学院大学教授) テーマ「これからの世界と日本」

☆9月30日(火) 18:30～20:30 MUAサロン(会員のみ) 会場：港区立生涯学習センター3F事務局

話者：佐藤修平さん(ユース活動委員会委員長 大学生) テーマ「鳥の目、虫の目で見る世界」

☆10月4日(土) 13:00～17:30 《UNESCOユース・フォーラム in みなと 2014》

「つながり始める僕らの New World」 会場：港区立男女平等参画センター(リーブラ)5階ホール

①留学生による母国紹介(スリランカ、ベトナム、メキシコ、モンゴル)

②留学生・日本人学生のパネルトーク「日本と私、そして未来」

③皆で歌いましょう ④自由な交流 定員130名 参加費：無料

☆10月11日(土)～12日(日)「みなと区民まつり」テント参加 会場：芝公園

☆11月15日(土) 12:00～15:30 世界の味文化紹介「ポルトガルのクリスマス料理」

講師：調整中 会場：港区立男女平等参画センター(リーブラ)料理室

☆11月28日(金) 18:30～20:30 第3回国際理解講演会 会場：港区立生涯学習センター3階305号室

講師：今泉裕美子先生(法政大学教授) テーマ「ミクロネシアから考える—太平洋のなかの日本」

サブテーマ「歴史が育む地域の『交流』とこれから」

【ご寄付、ご寄贈品など。ご協力ありがとうございました】

ミンダナオ子ども図書館への寄贈と寄付 ☆寄付：3,000円 高井光子様 衣料品ほか：富田春雄様、葛西章江様、須田康司様

【ご協力のお願い】

\*日ユ協連・東日本大震災子ども支援募金 常時受け付け中です。

\*ミンダナオ子ども図書館への寄贈品(衣料品など：新品・中古品[洗濯済]、除・毛織物)。事務局まで。

港ユネスコ協会事務局 (火～金 10:30～17:30)

〒105-0004 東京都港区新橋 3-16-3 TEL 03(3434)2300 TEL・FAX 03(3434)2233

Eメール：info@minatounesco.jp

ウェブサイト：<http://minato-unesco.jp>

■編集後記■ ◆初めまして。新しく事務局で勤務することになりました桐渕泰雄と申します。よろしくお願ひします。最近、結婚式コーディネーターの仕事をしている高校の同級生だった女性が、あるバラエティ番組で取材を受けていました。学生時代の仲間が活躍をしている様子を見ることができ、自分の励みになりました。(桐渕泰雄) ◆最近、TV 気象情報で「今までにないほどのゲリラ豪雨」とか「強風」「竜巻」などという言葉が聞かれます。気象変化は世界中で起こっているようです。2014 年夏は東京にいて熱中症対策を真剣に考えました。秋の台風シーズンもあまり災害が起きないように祈ります。(坂下妥子) ◆医学の進歩によって廉価で簡便な血液検査による癌の早期発見が可能になっている。素晴らしい。一方、デザイナー・ベイビーなる言葉も耳にする。遺伝子操作で親が望む外見や体力・知力等を持たせた子供のことだそう。子は天からの授かりものではなく、人為的創造物になってしまうのか。医学の進歩の空恐ろしい一面である。(須田康司) ◆近年、若者の内向き傾向が言われ、地元の姉妹都市交流でも、応募してくる高校生の数が低調で気をもんでいた。幸いこの夏の派遣では予想以上の応募があり、8 名の高校生を 2 週間の米国ホームステイに送り出すことができた。帰国報告で楽しそうに異文化体験を語り合う若者たちの心の収穫は大きかったようだ。(棚橋征一) ◆友人のグルジア女性が、国際交流基金の海外日本語教師・短期研修のために来日中だが、「日本は治安が良いと聞いていた。でも毎日 TV を見ていると、家族内や友人間の殺人事件が多くてびっくりした。何故でしょう？」と質問され、答えに窮した。大家族で暮らしている国々の人には、とりわけ、理解しがたいのかもしれない。(高井光子)